



眼の健康ジャーナル

Vol. 2. No. 1 2

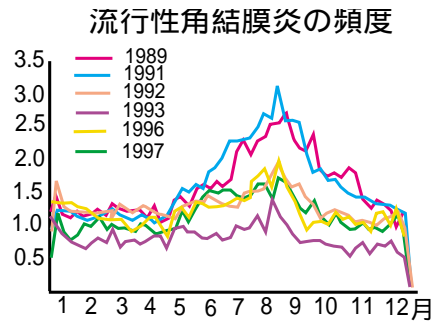
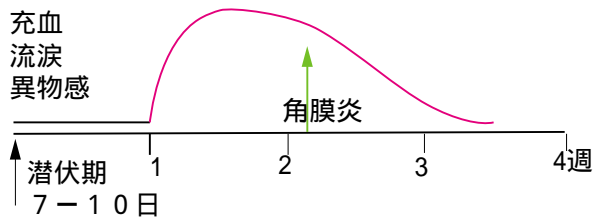
三島眼科医院発行

〒213-0001 川崎市高津区溝口 1-9-1

三井住友銀行溝ノ口ビル4 F

Phone: 044-814-4138

流行性結膜炎の話

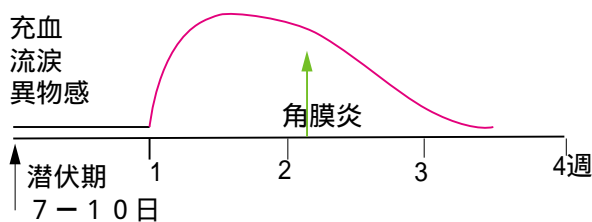


流行性結膜炎の話

梅雨が明け、夏になると子供たちがプール遊びを楽しむ季節ですが、また結膜炎が流行する季節でもあります。流行性結膜炎(はやり目)は主にウイルス感染によっておこり、伝染力がとても強いので、この病気にかからないよう気をつけましょう。

1. 流行性角結膜炎

急に下図のように結膜が真っ赤に充血し、眼がゴロゴロする異物感があり、涙がしきりに出て、時に眼が痛く、まぶたが腫れ、耳の前にあるリンパ節が腫れて痛いこともあります。急に症状が出るので驚きますが、実は約1週間前にアデノウイルスに感染したのです。下図にこの病気の症状経過を示しますが、感染後、約1週間の潜伏期を経て発症し、4-5日は症状が一向に良くならない感じがします。発症後1週間目



頃、急に眼が痛くまぶしくなり、角膜表層に下図のような炎症性混濁が現れることがしばしばあります。これを「点状表層角膜炎」といい、このように角膜・結膜の両方に病気が現れるので、角結膜炎と呼ばれるわけです。



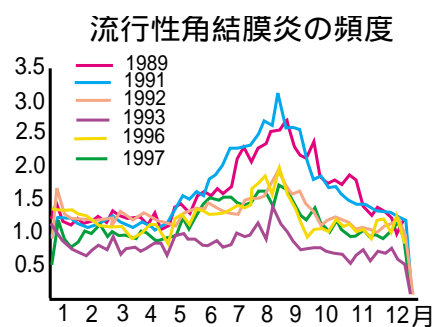
残念ながら、流行性角結膜炎を引き起こ

すアデノウイルスを退治する特効薬はありません。そこで、抗生物質、抗炎症剤等で治療しますが、症状が良くなるのには、全体として約2週間くらいかかります。

2. 流行性角結膜炎の流行

厚生省は日本全国で多数の病院、診療所等を指定し、いろいろな感染性疾患を診た時は毎週報告させ、全国的な流行の動向を把握し、予防に役立てようとしています。これを「感染症サーベイランス事業」と呼んでいます。流行性角結膜炎もこの報告対象で、過去10年間の流行の動向が発表されていますが、その一部を示したのが下図です。この結膜炎は6月から増え始め7月、8月にもっとも

多いことが分かります。1989年、1991年、1993年には非常に流行し



ましたが、その後減少し、1993年には最も少なく、昨年また増加しています。今年はどうでしょうか？これからこの病気に感染しないよう予防に気をつけましょう。

3. 感染の予防

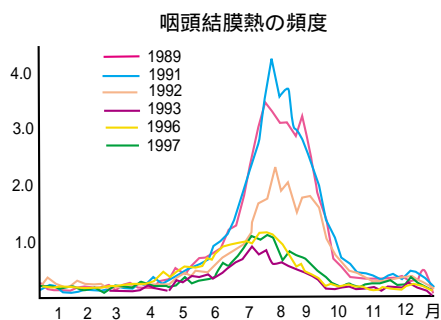
原因となるアデノウイルスは、この病気にかかっている人の涙、目やに等にたくさ

(裏へ続く)

ん存在し、発症後1週間以内は強い伝染力があります。ウィルスは乾燥に強く、眼をさわった手を介して、ドアの取っ手、電車の吊革など、手で触れた所で生きていて、感染源になります。消毒薬で手を消毒することも大切ですが、ウィルスは薬剤にも強いので、同時に流水で石鹸を用いて手をよく洗うことが必要です。家族内感染も多いので、家庭でよく手を洗い、手ぬぐいは必ず個人別にしましょう。また、この病気の人には他人にうつさないよう、よく手を洗いましょう。

4. 咽頭結膜熱

アデノウィルスにはたくさんの種類があり、流行性角結膜炎とは別のアデノウィルスによるものに、咽頭結膜熱があります。この病気は、1)のどが赤く、痛みがあり、2)発熱があり、3)結膜が急に赤くなり充血するという3つの症状を示し、小学校、中学校生徒に多く、プールで感染するものが多いので、別名「**プール熱**」とも呼ばれます。結膜炎の症状は流行性角結膜炎より軽いものですが、潜伏期はやや短くて5-7日で、



状態も10日くらい続きます。この病気も厚生省の「感染症サーベイランス事業」の対象になっており、過去10年間の流行の動向が発表されています。その一部を上図に示します。流行性角結膜炎と同様に、7-8月にもっとも多く見られ、1989年、1991年には大流行しましたが、1993年には少なくなり、また昨年は少し増加しているようです。川崎市衛生部で、この病気の原因となるウィルスを検査していますが、昨年の結果は右上図のようで、6、7、8月に多く見られます。これからいよいよ

よプールのシーズンになりますので、感染しないよう、人にうつさないよう気をつけましょう。

5. 感染の予防

この病気も流行性角結膜炎と同様に予防が大切です。プールで感染することが多く、眼やのどから感染するので、プールで泳ぐ時は必ず水泳用ゴーグルをすること、プールから上がると必ず眼を水洗いすること、必ずうがいをする事等を励行していただきたいと思います。手をきれいに洗うことは勿論です。この病気にかかれば、医師の許可があるまで、プールには入れません。

6. その他のウィルス性結膜炎

エンテロウィルスと呼ばれる別のウィルスにより出血性結膜炎がおきます。この結膜炎は潜伏期が1-2日と短く、急に発症して右図のように結膜に出血点が多く見られると云う特徴があります。このウィルスは西アフリカのガーナから出現したと云われ、東南アジアを經由して日本にも侵入し、1969-70年に世界的に大流行しました。原因ウィルスは日本の学者によって決定されたものです。厚生省の感染症サーベイランスによると平成6年に沖縄県で大流行しました。その後は大流行がおきていませんが、東南アジア等へ旅行し、感染して帰国した人が端緒となって散発的な発症が見られています。非常に感染力の強いウィルスですから、感染しないよう、また人に感染させないように注意が必要です。

川崎市でのアデノウィルス7型

